

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300087	事業の開始年月日	平成21年5月1日
		指定年月日	平成21年5月1日
法人名	株式会社 日本アメリティライフ協会		
事業所名	花物語 たかつ		
所在地	(213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根635-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年12月4日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の持っている力、能力を引き出し安心・安全に生活が送れるよう、職員には研修等により日々のケアに生かせるようにすること、家族よりの意向を理解し考慮すること、地域とのかかわりや交流により楽しみを見い出すことで支えあい個人の支援に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年12月21日	評価機関 評価決定日	平成28年5月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所はJR南武線久地駅から徒歩12分程の静かな住宅地の中にある。その一角は、同一法人の小規模多機能併設のグループホームやグループ会社の高齢者住宅や配食業者、他法人の高齢者住宅、医療機関、薬局、歯科医院などが集まった「メディカルヴィレッジ」となっている。3階建ての2、3階に各ユニットがあり1階は他法人のデイサービスである。バリアフリー構造でエレベーター、車いす専用のトイレ、洗面台を備え、キッチンとトイレを中心に回廊式の廊下があり、家族が泊まれるゲストルームが用意されている。利用者が主人公となり素敵な花を咲かせてほしいと法人が名付けた花物語の名称のように季節の花を玄関や居間に絶やさず飾っている。 【外出や食事を楽しむ支援】 年間計画の中で花見や春秋のバラ苑見学など多くの外出を企画している。今年度は遠出を目標にしたイルミネーション観賞に出かけ、初めての夜間外出を実現している。利用者の希望や職員の提案から、車でアイスクリームを食べに行ったり、昔懐かしい萱葺き屋根のそば屋に出かけたりしている。また、広告を見て「最近、おでんやピザ食べてないね」の利用者の声が上がると、献立を変更し対応するなど、職員は利用者が笑顔になるために努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	花物語たかつ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。	「人生の大先輩」、「お互いを支え合って」、「その人らしさを受け止める」、「気づきのある生活」の4項目の理念を掲げている。理念は、毎朝の申し送り時に唱和し、スタッフ会で取り上げて共有し、日々のケアの場面で実践につなげられるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。施設行事（納涼祭等）にも地域の住民が参加されている。	-	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者とは触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。施設の行事に参加して頂くことにより、実際に過ごしている姿を見て頂いたりしている。行事だけでなく日常でも来訪して頂きお茶を一緒にされたりし過ごしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様から意見をいただきサービスの提供に反映している。	運営推進会議は、利用者、家族、町内会役員、地域包括支援センターの職員が参加している。2ヶ月毎に開催し、事業所の活動報告や外部評価結果の報告をしている。「役割がほしい」との参加者の意見を活かし、ゴミ出しを利用者に依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。	区の高齢支援課や地域包括支援センターの担当職員とは、2ヶ月ごとの運営推進会議報告の時に情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて職員への指導を継続している。身体拘束を行っている利用者はいません。必要に応じて、家族と十分話し合いを行っていきます。館内の施錠は行ってはいないが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。	12月に身体拘束についての研修を行っている。利用者の居室は内・外側から施錠できる。1階玄関は、他事業所と併設していることなどから職員が施錠している。利用者の状況によっては家族の了解を得てユニットの扉を施錠しているが、通常はセンサーを設置し、反応があった場合には職員がすぐに対応できる体制となっている。職員は、利用者の動きをよく見て意向を把握するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしています。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で職員への周知を行っている。必要に応じて関係者と話し合い、成年後見人の手続きをとっている方もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、特に話し合いの時間を多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。家族より他利用者と一緒に関心や要望があり、運営推進会や職員間にて話し合い意見の反映している。朝礼挨拶や体操など取り入れ継続している。	利用者の様子は、家族来訪時のほか、居室担当者から一筆箋を添えた毎月の手紙の送付時に伝えている。意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示して意見や苦情の申し出ができることを伝えている。「衣類の収納は、本人のやり方を尊重してほしい」との家族の意見をうけ、実践した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について検討し、夜間のイルミネーション見学をしてい と意見があり、安全面に考慮し行った。職員より季節の花を玄関先に植えたいと意見があり利用者と選んだ花を植えた。	管理者は、毎月行っているスタッフ会や日々のケアの際などに職員の意見を聞いている。初めての夜間外出行事の提案やその他の行事を企画した職員から、材料などの物品を購入したいと要望があった時などに協力し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。11月よりOJT研修を実施しており新人育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の自宅への定期的な外出・外泊し過ごされる方や、家族行事(お墓参り・お誕生日会等)に必ず参加される方など、大切な家族との絆や馴染みの関係が途切れないように、支援に努めている。	利用者のこれまでの関係の把握に努めている。家族の協力のもと自宅への定期的な帰宅や地方の実家を訪れている。また、馴染みの洋服屋や、勤めていた会社を訪れる際に同行するなど、馴染みの関係を維持するための支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話が出るよう、席の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々には食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわりの品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。	アセスメントや家族の話などから利用者の意向を把握している。「歌が好き」「こだわりの品を自ら選び購入したい」など、把握した意向を職員が共有している。把握が困難な方については、日ごろ捉えている利用者の全体像をもとに、快・不快の表情や行動を見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかり把握し、必要な支援について個別ケアに努め、職員間で話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。	本人や家族から「以前と同じように生活したい、元気に生活して欲しい」などの要望を聞き取り「施設サービス計画書」を策定している。計画書の見直しは、利用開始から1ヶ月後とその後6ヶ月に1度生活記録などを基に行っている。状態の変化が見られた際は、医師など関係者と話し合い介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや、初詣に地域の神社へ参拝しています。住み慣れた地域の行事や行きなれた場所へ行くことができる支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医、看護師とも24時間対応可能な体制である。事業所の協力医をかかりつけ医としている方がほとんどで、往診に訪れる内科医を主に受診している。以前からのかかりつけ医への受診は1名で、家族が対応し、医療情報を集約したファイルに記録を残している。歯科医が月2回来訪している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績はないが、食事量の低下などから事業所での対応が難しく、家族の延命希望もあり医師と相談し療養型病院へ移った事例がある。入居時に「利用者の急変時や重度化した場合などにおける対応に関する指針」を説明し、本人や家族の意向を確認して同意を得ている。	今年度行われた研修を今後にも備え継続されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。	10月に消防署の防火対象物立入り検査が行われ6月と11月に夜間想定や通報の訓練を実施している。町内会の防災訓練に参加している。近隣の同一法人傘下の事業所や徒歩圏に住む職員から協力が得られる。非常災害時の備蓄として3日分の水や缶詰などの食品を準備している。	隣接している他施設の方たちとの連絡をどうするか、地域でどこまで協力してもらえるかなど、話し合いの場を積極的に設定するなどして、災害時の協力体制が構築されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。	「分かりやすい言葉で丁寧に、ダメは言わない」など、利用者は人生の先輩であり敬意をもって対応にあたるという理念を職員が共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。プライバシー保護の研修を昨年3月に実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。おやつ作りや外食なども楽しんでいる。	変化に富んだ食材やメニューを取り入れ、利用者支援に職員が集中できるなどの利点から、法人の方針で業者の宅配を利用している。下膳、食器拭きや食器棚への収納を利用者が行っている。そば屋などでの外食や広告を見ての食事の変更、誕生会などの行事会食で食事を楽しめるようにしている。行事では利用者と一緒に職員が同じ食事をしている。	地域密着型サービスならではの特性を踏まえて、行事以外でも、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめる環境作りを前向きに、検討されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。	利用者のそわそわした様子や生活記録から把握した排泄パターンの時間を目安にして誘導し排泄の自立を促している。退院時でも立位できればおむつからリハビリパンツに変更し、失禁がなければ布パンツとパッドへと改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。経過について主治医への報告を行い、指示を貰う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛けを工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。	概ね週2回、一番風呂の希望などを考慮しながら入浴している。入浴を好まない利用者には「発疹の確認をさせてください」など、声かけを工夫したり脱衣所へ誘導し入浴を促している。温泉地の入浴剤などで入浴を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。又、話相手になる事で安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。服薬は、スタッフ2名によるダブルチェックで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。入居者様のその日の希望にそり近隣の散歩を行っている。コンピューターやレジエースを使用し、森林公園やよみうりランドのイルミネーション見学へ毎月出かけて居る。	利用者の希望により薬局などでの買物や散歩に出かけている。年間計画を作成し花見やバラ苑などに出かけている。今年度は、遠方に出かけることを目標にし外出行事として多摩センターや川崎大師などまで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物を楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や手紙のやり取りなど、御本人の状況に応じて可能な限り対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。	バリアフリーで車椅子の高さに合わせたダイニングテーブルや車椅子対応のトイレがあり、台所を中心とした回廊作りの廊下になっている。玄関先や居間に花を飾り、クリスマスの装飾をするなどで季節感を採り入れている。窓は大きく自然光が取り入れられ、加湿器や除菌効果のある空気清浄機を設置するなど、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている場面をよく見かけます。ご本人の意思を尊重し自由に席を移動して過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。	事業所の備品は、クーラー、照明器具、ベッド、クローゼット、洗面台、カーテンで居室の様子はそれぞれに違っている。好みの机、椅子、写真、テレビなどが持ち込まれ利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである「お互いを支えあって」は職員、家族、地域との関りも含めており、その方らしさを受け止め、気付きのある生活ができるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加。地域交流に利用者にも役割を持ってもらう防犯パトロール（散歩）も継続している。施設行事（納涼祭等）にも地域の住民が参加されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、利用者とは触れ合いの機会を持っていただくと共に、認知症の人を理解いただくよう努めている。施設の行事に参加して頂くことにより、実際に過ごしている姿を見て頂いたりしている。行事だけでなく日常でも来訪して頂きお茶を一緒にされたりし過ごしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告を通し、日頃の生活や過ごし方などを理解していただく。参加利用者様から意見をいただきサービスの提供に反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高津区の地域包括支援センターや高齢者支援課へ定期的に訪問し、運営推進会議の案内や相談・情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて職員への指導を継続している。身体拘束を行っている利用者はいません。必要に応じて、家族と十分話し合いを行っていきます。館内の施錠は行ってはいないが、1階のエントランスは防犯のため職員が閉鎖をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、会議にて虐待について学ぶ場を設けたりしています。職員同士で情報交換し虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で職員への周知を行っている。必要に応じて関係者と話し合い、成年後見人の手続きをとっている方もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、特に話し合いの時間を多く持ち、お互いに納得の上で入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご様子の手紙発送と事務所前に意見書の設置がある。家族より他利用者と一緒に関心があるとの要望があり、運営推進会や職員間にて話し合い意見の反映している。朝礼挨拶や体操など取り入れ継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会、社員会を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めている。行事について検討し、夜間のイルミネーション見学をしようと意見があり、安全面に考慮し行った。職員より季節の花を玄関先に植えたいと意見があり利用者と選んだ花を植えた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件など考慮し雇入れを交わしている。資格手当や土日祝日手当の支給、資格取得支援の奨学金制度もあり整備できている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけている。11月よりOJT研修を実施しており新人育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境を把握し、GHが適切かどうかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、支援できるよう、協力し合いながら生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意見も反映できるようにし、又、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の自宅への定期的な外出・外泊し過ごされる方や、家族行事(お墓参り・お誕生日会等)に必ず参加される方など、大切な家族との絆や馴染みの関係が途切れないように、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会、季節の行事等では、入居者様同士の親睦を図るため合同で行っている。違うフロアでも気軽に会話が出るよう、席の工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際は、必要とする情報や支援を本人・家族に提供するようにし、入院があれば見舞いも行き、手紙の発信により、良い関係性を継続できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その時々には食べたい物があれば買い物に行く等対応している。こだわりの品は自分で選んでいただくなど、支援すると共に個人の自立性を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経緯や生活環境など、職員間で情報共有し入居してからも、今までの生活習慣が可能な限り継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、職員間で話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為にも、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員からの情報を多く得て、作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報や気づきを残す事が職員間の共通理解、共通ケアとなり、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービスは何であるかを考え、次につなげるサービスがあればつなげていくように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや、初詣に地域の神社へ参拝しています。住み慣れた地域の行事や行きなれた場所へ行くことができる支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月2回の定期往診を受けている。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護職員による看護経過記録紙をもとに、職員への適切な指導を行う。主治医との共通の用紙でもあり連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取る事により、本人の状態を把握するよう努めている。医師の説明等に同席し医療従事者とも関係し支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わしている。家族の意向を確認している。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、主治医との連携をとり支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時火災・日中災害火災想定で、消防署指導で訓練を実施。災害時応援等の協力を地域町内会、近隣施設から得ている。災害時備蓄品も備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を常に意識し、言葉使いに配慮している。着脱の順番も個人を尊重し対応している。介助拒否があり移乗難しい方は声かけ等行い立位の工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為、言葉や他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態の支障にならない限り、自己決定できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣や配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先している。就寝時間も体調等に配慮し時間は決めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意志や希望を尊重しながら、季節やTPOに合った身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、食事の準備・配膳・下膳・片付けなどを職員まかせでなく協力して作業を行うよう心掛けている。おやつ作りや外食なども楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っている。食事量減少時は他食品や調理での工夫で補う。水分は時間や品物を変え補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践している。毎食後、職員による声掛けや介助により、利用者の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握している。トイレでの排泄が出来るよう、誘導や声掛けを行い、個別ケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めている。経過について主治医への報告を行い、指示を貰う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛けを工夫している。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導をしている。入浴剤やゆず、菖蒲湯でも楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠して頂けるよう、日中のお過ごしにも考慮し支援している。又、話相手になる事で安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めている。服薬は、スタッフ2名によるダブルチェックで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めている。パトロールも散歩ではあるが、近隣の防犯として役にたっている事を入居者には伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援している。入居者様のその日の希望にそり近隣の散歩を行っている。コンピューターやレジエースを使用し、森林公園やよみうりランドのイルミネーション見学へ毎月出かけて居る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主に事業所で行っているが、近くのスーパーや商店での買い物が楽しめるよう支援している。自己管理にて所持している方もいて見守って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用や手紙のやり取りなど、御本人の状況に応じて可能な限り対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアには毎週季節の花を飾り楽しんでいる。フロアの壁には季節の絵や思い出の写真や本人作品等飾り、通るたびに会話が生まれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてくつろいだり、談話をしている場面をよく見かけます。ご本人の意思を尊重し自由に席を移動して過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、安心して居心地よく生活できるよう、家族と一緒に工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 たかつ

作成日 平成28年5月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	隣接している他施設との連絡方法がない、地域での協力体制の構築	隣接施設・地域との災害時の連絡・協力方法の構築を目的とした話し合いの場を開催し具体的な方法を決定する。	隔月で開催している運営推進会議で毎回必ず防災に関する話を行っていく。	1年
2	33	開所から現在に至るまでターミナルケアの実績がない。	ターミナルケアの経験があるスタッフが少ない為、研修を年2回必ず行う。	年2回の研修を継続していき、看取りの経験者やナースからの経験談・問題・課題点などを話して頂く機会を設ける。	1年
3	40	行事以外では利用者とスタッフが共に食事を取る機会が人員の都合上少ない。	食事を一緒に取るのは人員・休憩時間の都合上難しい為、別の時間で楽しめる時間を提供できるように努める。	おやつの中にはスタッフも共に席に着きお茶を飲みながら談笑し楽しめる時間を提供する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。